

第3回次期県民運動検討委員会 議事録

○日時 平成27年9月7日(月)

13:00～15:00

○場所 ふくしま中町会館6階南会議室

〈丹波委員長〉

- これまでの御意見を踏まえて、事務局において次期県民運動(案)を整理しているとのことですので、議論を始める前に説明してもらいたと思います。
- それでは、資料1及び資料2について、事務局から説明してください。

〈次期県民運動(案)：資料1について事務局説明〉

〈次期県民運動の進め方について(案)：資料2について事務局説明〉

〈丹波委員長〉

- 事務局から説明のあった資料1及び2に関して、「目指すべき方向性」「テーマ案」「取り組み」「実践組織体」の順に検討していきたいと思いますがよろしいでしょうか。
- 御意見をお願いします。

【目指すべき方向性及びテーマ(案)について】

〈森合委員〉

- 資料1にある内容は、厚生労働省が提唱している「健康日本21」の「健康づくり国民運動」と被っている。
- 健康の視点を大切にしながら、もっと広がりが見たいのでは。
- 県民運動は、子どもからお年寄りまで、多世代が主体的に関わっていけるもので、県民運動の取り組みを通して、福島を盛り上げていこうというものだと思うので、「健康」単体ではなく、プラスαのものが欲しい。
- 目指すべき方向性としても、「笑顔で元気にみんな実践、行動」などがいいのでは。
- 次期県民運動の名称としても、「健康チャレンジ(又はアクション)県民運動」などだと流れがよいのでは。
- いろいろな活動を拾えるので、地域づくり+健康づくりの2本柱がいいのでは。

〈菅野委員〉

- 森合委員から、広がりが見たいとの意見があったが、逆に資料1を見たときに、広がりすぎて、

求心力がなくなるのではと感じた。

- もっと絞り込んだ方が、県民に伝わりやすく、わかりやすいと思う。

〈丹波委員長〉

- 保健福祉分野だけの県民運動だけでなく広くという御意見と、絞るべきという御意見があるが、如何か。

〈赤津委員〉

- テーマについて、人だけでなく、人と地域を活気づけるといった方がいいのでは。
- 「食べる・楽しむ・運動する」は、ありきたりすぎて、インパクトにかけるため、県民の共感が得られないと思う。
- 「食べる・楽しむ・運動する」といった表現の発信の仕方、どうしたら魅力的に映るのか、ということについても検討していきたい。
- 失ってしまったものを回帰する視点と新たなものを作っていく視点に分けて、行動例を示すと、県民も動きやすく共感しやすくなるのでは。

〈丹波委員長〉

- 地域の教育的な取り組みとか、新たにふくしまの中で、創っていくようなものを盛り込んだ方がいいのではということですね。

〈齋藤千恵子委員〉

- 目指すべき方向性の中に「チャレンジ性、アクション」を取り入れた方がいい。
- 方向性の中に、積極的に前に進んでいく気力、イメージを入れるのは、大賛成である。

〈石井委員〉

- 「生活」という表現は、狭いイメージ、もっと広がりがあった方がいいのでは。
- これまで、復興に向けてがんばってきた県民に対して、もっとがんばれと言うのか、あまりがんばれ、がんばれというのもどうなのか、自問自答しながら進めていった方がよいのでは。

〈菅野委員〉

- 「生活」の言葉に、違和感である。

〈丹波委員〉

- 「暮らし」の方がいいか？「実践とか行動」とかの御意見もあった。
- みんなで全体でというイメージからすると、生活は個別のものになるので違うのではない

かという意見。

〈菅野委員〉

- ・ 「笑顔で元気みんな実践」などは？

〈森合委員〉

- ・ 非常によいと思う。
- ・ 県民運動は、行政が押しつけるものではなく、推進体がみんなで合意の下に行動例を示すものだと思うので、気持ちとして前向きに、みんなで行動する意味合いが前面に出てくるとよいのでは。

〈丹波委員〉

- ・ 方向性は、「生活」を「みんなで実践していこう、取り組んでいこう」という言葉尻にすることでよろしいか。
- ・ テーマについては、保健福祉分野に絞るとか、さらに地域づくりを追加した方がいいであるとか、新しいふくしまを創っていくといった御意見があった。
- ・ テーマを見たときに、どこにでもある内容になっている。ふくしまである理由は何だろうかと感じた。ふくしまらしさが入っているといいなと思う。

〈石井委員〉

- ・ 「こころ」が先にくるのに、違和感を感じる。普通は、体が先。

〈森合委員〉

- ・ 普通は、体。
- ・ 地域づくり活動の中には、他地域との交流、ふくしまの今を発信していく情報発信、来た人へのおもてなしなどが含まれるので、ふくしまが抱えている現状・課題を伝え発信、誇りを持って伝えていけるのでは。
- ・ 狭い方がいいという御意見もあるかとは思いますが、絞り込むと花いっぱい運動や省エネ運動などに帰結してしまうので、受け皿としては広い方がいいのでは。
- ・ 取り組みやテーマは、推進組織で、年毎に新しいものを提案していく方法もあると思うので、受け皿は広い方がいい。

〈菅野委員〉

- ・ 今のふくしま県民に求められているのは、心よりも肉体的な体の健康、改善。
- ・ 糖尿病や血圧など全国的にワーストがあるので、肉体的な健康に集約していくべきではないか。

- ・ 体の健康をやれば必然的に、心に繋がっていくと思う。

〈齋藤千恵子委員〉

- ・ 「地域づくり」のワードを「ふくしまづくり」では、駄目か？ふくしまらしさというか、「ふくしま」という文字を入れた方がよい。
- ・ このままだと、保健福祉部の領域、プラスαの新しい部分を考えていきたい。

〈石井委員〉

- ・ 運動の項目を見ると「ウォーキング大会」など、交流を含むものが多くある。
- ・ 健康づくりが、地域づくりに結びついていき、1人ではなく、みんなでヨガするなど地域活性化していくという流れなら、流れるのでは。

〈菅野委員〉

- ・ 「健康」を心と体に分ける必要は、あるのか？

〈丹波委員長〉

- ・ やわらかく表現すると「健やか」とか「活気づく」とか。
- ・ 人も地域も一緒に、元気に健やかになれる「ふくしまづくり」というところか。
- ・ 「ふくしまづくり」という言葉を活かしていくということでしょうか？
- ・ 平仮名がやわらかい。

〈森合委員〉

- ・ 「健康づくり」をテーマの軸とすれば、個人での身近なところでの取り組み、例えば「食」や「体を動かす」が内なる実践として、そして「ふくしまづくり活動」が外への活動というイメージが出てくるので、テーマをその2つくらいにするのがいいのでは。

〈鶴見課長〉

- ・ 保健福祉の専門的な行政施策的取り組みは、保健福祉部の方で施策体系を組んで取り組んでいると聞いている。
- ・ 保健福祉部的な専門的なものだけでなく、もっと広く取り入れる意味として、原案を作った。補足させていただく。

〈花見委員〉

- ・ 「笑顔・元気」は、新味性を感じない。夢とか希望と同じで50年前と変わらない感じ。
- ・ この時期に新しい県民運動をやるので、奇をてらうわけではないが、もっと新しい時代のインパクトのある言葉の方向性やテーマが、よいのではないか。

〈丹波委員長〉

- ・ 「地域」というものが、ひとつ入った方がいいというのが、御意見か。

〈菅野委員〉

- ・ 「ふくしま」という言葉を使うことによって、県民、関係団体、地域なども含めての意味を持てるのでは。
- ・ 「ふくしまの健康～人も地域も～」など。

〈石井委員〉

- ・ 「地域づくり」をやるときに、今回は、「健康」がキーワードということなのかと。
- ・ 「健康」キーワードで「地域づくり」とあまり言ってしまうと、お仕着せ感があるかもしれない。キーワードなので、テーマに入れていいのかどうか。
- ・ キーワードとしては「健康」、しかし県民に興味を持ってもらうにはインパクトのある言葉は、必要。

〈菅野委員〉

- ・ カタカナに逃げるとか。

〈丹波委員長〉

- ・ 「リフレッシュふくしま」とか
- ・ 一般的にならずに、ふくしまらしい方向性を盛り込めれば、というのが御意見なのかと。

〈本多委員〉

- ・ 単純な言葉ならいいが、カタカナに逃げると、よけいわかりにくくなる。
- ・ 目指すべき方向性は、「みんなで実践 笑顔で元気」「みんなで作る 笑顔と元気」なども分かり易いのでは。

〈丹波委員長〉

- ・ 方向性の中に、ふくしまらしさ、新しいふくしまを創っていくイメージを入れるのもあり。
- ・ 方向性を「笑顔で元気なふくしまをみんなで作ろう」「新しいふくしま」などにして、テーマは、一般的な健康や地域にするとか。

〈菅野委員〉

- ・ 「ふくしま」は、テーマに入れるべき。方向性は、基本的なところなので。

- 例えば、「ふくしまの健康～人も地域も～」とか。

〈森合委員〉

- みなさんの意見は同じようなので、文言の整理は、事務局に整理してもらった方がいいのでは。

〈丹波委員長〉

- 皆さんの意見を踏まえつつ、事務局と委員長で整理するということがよいか。

〈石井委員〉

- 県民運動のテーマは、何を求めているのか？
- 震災から5年たって新たなステージに行くので、「新たな笑顔で元気なふくしま」にしようという新しい方向性というのはわかる。
- 活動のテーマなのか？「テーマ」だけを言っているので、言いにくくなっている。

〈篠木局長〉

- 昨年度までの県民運動のテーマは、「地域コミュニティの再生」であった。
- それに代わる、核となるものということ。

〈鶴見課長〉

- 「ふくしまの健康～人も地域も～」というのは、テーマというか合い言葉みたいなもののイメージとしては、合っているのではないかと。
- 目指すべき方向性も、具体的な形で身近にわかりやすく表現されていると思う。
- これまでの部分とは、違った形で活かせるのではと。

〈丹波委員長〉

- 御意見を踏まえつつ、方向性とテーマを整理しながら進めていく。

【取り組みの柱・具体的な取り組みについて】

〈菅野委員〉

- 「楽しむ」は、広げすぎる。受け止める側が何でもいいのかとぼやける。
- 「運動、食」を前面に出せば、趣味の部分は必要ないのでは。

〈丹波委員長〉

- 食と運動だけでは、保健福祉部に近い形になってしまうという懸念がある。

- ・ 「楽しむ」の表現はあるにしても、文化的なものがあっても良いのでは。

〈森合委員〉

- ・ 人の健康の部分としては、食、体を動かす。文化は、心の部分、大事なことだと思う。
- ・ 別な部分で、地域づくり、ふくしまづくり、交流、発信などを柱にしていく。

〈花見委員〉

- ・ 人も地域も両方包含して、地域づくりの部分で、自分のふるさとに誇りを持つような。
- ・ ふくしまらしさを取り戻したり、気づいたりするようなことを「地域づくり、ふくしまづくり」のどこかに入れられれば。健康とは、なじみにくいかもしれないが。

〈石井委員〉

- ・ 健康経営という言葉があるが、メンタル的に弱くなったり、休職などの心の健康からすると、「楽しむ」ではメンタルは治らない。「楽しむ」に行かなくなるから、メンタル的に悪くなる。
- ・ 心の健康に、「楽しむ」は、違うと言われそうな気がする。保健福祉部になってしまうので、微妙ではあるが。
- ・ 「楽しむ」が、中心にあるのも違和感である。

〈丹波委員長〉

- ・ 「賑わう」なんかも「地域」に入ってくるのでは。
- ・ 「誇り」は、どこに入れるか難しい。方向性に誇りを入れてもよいが、具体的な取り組みでは難しいのでは。
- ・ 取り組みは、実践しやすさで考えたらよいのでは。

〈篠木局長〉

- ・ テーマに「地域づくり、ふくしまづくり」を入れてはとの御意見があり、逆に「健康」に「楽しむ」を入れることでぼやけるのではという御意見があった。「ふくしまづくり、地域づくり」を入れるのか、はっきりさせた方がよいのではないか。

〈森合委員〉

- ・ テーマについては、「健康」と「ふくしまづくり」の二本立てにして、受け皿は広くしておいた方がよい。
- ・ 復興のフェーズは変わるので、推進組織の中で、単年度、数年単位でその時に必要な取り組みを決めるのがいいのでは。
- ・ その時に必要なものを見直す流動性が必要で、固まると発展性がないので、そういう仕組みづくりをすべきではないか。

〈菅野委員〉

- ・ かけ声を掛けただけで、県民が動くわけではない。いろいろな仕掛けをして、やったことのない人に参加してもらって、継続し、定着していくというプロセスが必要。
- ・ 定着には、時間がかかるため、毎年変えるとなると定着性としては、どうなのか。
- ・ 「楽しむ」について、生活の充実というのはあるのであろうが、趣味は個人の好みの問題なので、これを載せる必要があるのか。
- ・ 課題になっているのは、メンタル面のことなので、単純に「楽しむ」ではなく、県民のメンタル面での向上に繋がる活動がふさわしいのでは。

〈丹波委員長〉

- ・ テーマに「地域づくり」を入れるかで、取り組みも変わってくるのかと。

〈石井委員〉

- ・ 山に登るだけでなく、例えば100名山に登りましょうとか、祭りで踊ってツイッターで流しましょうとか、ふくしまの花の写真を撮って発表しましょうとか、個々の行動の例示だけでなく、みんなで行動して、地域に係るようなそういう例示をしていけば、楽しい県民運動になるのでは。

〈赤津委員〉

- ・ 「こころの健康 からだの健康」は、中テーマのイメージである。
- ・ 人と町が活気づくようなイメージの下に、健康がくるような位置づけなのは。大テーマとしては、「こころの健康 からだの健康」は、限定しすぎている。
- ・ フラガールズ甲子園は、町の特色づくりと高校生の人づくり。
- ・ 人と町の活気づけというのがあって、人と町の中項目があるとすれば、その下に健康・生涯学習・人づくり・町の特色づくりなどが、ぶら下がっていく方が、ヴィジョンとしてはイメージしやすい。

〈森合委員〉

- ・ 「地域づくり」「ふくしまづくり」をどう、位置づけていくか。
- ・ 分けてもいいが、一つの行動が、ふくしまを盛り上げていくことに繋がっていくものがないと、行動例が示せない。
- ・ 例えば、食であれば、ふくしまのものを食べましょうとか、県外の人に発信しましょうとか繋がって行かなくてはならない。
- ・ そうすれば、目指すべき方向性での「みんなで実践」が入ってくると、県民運動としての性格付けがしやすい。

- ・ 取り組みも単体のものだけでなく、経済活性化に繋がるような例示であれば、よいのでは。

〈丹波委員長〉

- ・ 例示として、具体的な行動に「ふくしまづくり」に繋がっていくものを入れた方がいいのではないかと御意見ですかね。

〈本多委員〉

- ・ 「祭りに参加する」は、「楽しむ」では浮いている。
- ・ 「祭りに参加する」は、凄くいいことであるが、これはまさに地域づくりそのものである。それ以外は、個々の行動なので並べ方がどうなのかと感じていた。

〈菅野委員〉

- ・ 歩くのも山登りも、前向きに取り組んでいる人は、それそのものが楽しい。スポーツも郷土料理も、「楽しむ」に繋がるのでは。

〈石井委員〉

- ・ 笑顔が方向性なら、「運動」などは拘りすぎではないか。楽しければ笑顔であるから、笑顔が方向性であるならば、カテゴリーをあまり考えなくてもいいのでは。
- ・ 楽しいことをやりましょうという感じで。

〈菅野委員〉

- ・ パワーアップもあるが、改善するもある。楽しみながら運動することをおして、回復とか改善とかも含むと思うので、単なる「パワーアップ」以外の言葉がいいのでは。
- ・ 今のふくしまに必要な言葉は、「回復」とか「改善」ではないかと思う。

〈森合委員〉

- ・ 狭い話になるが、歯の健康は大切である。3歳児の虫歯率は、全国一悪い数字。
- ・ 多世代に渡る、子どもからお年寄りまでというのを強調した方がよいのでは。

〈石井委員〉

- ・ 先にカテゴリーに分けて取り組みを考えているから、難しいのでは。みんな笑顔で「健康づくり」「ふくしまづくり」のためには、何をすれば笑顔になるかという例示を出して並べていって、まとめた方がよい。
- ・ カテゴリーに捕らわれすぎているから、窮屈に感じる。
- ・ 笑顔、楽しいことを出していって、カテゴリーに分けたらいいのでは。

〈丹波委員長〉

- 例示を見直した方がよい。
- まとめて、「健康」は大切で共通しているが、「地域づくり、ふくしまづくり」が入った方がよいという御意見。
- それを踏まえての取り組みが、個人の行動になってしまっていて、これに企業など団体が実践組織体として取り組んでいけるのか。各団体がやろうとうまく絡んでいけるか、コミットできるかという不安がある。

〈鶴見課長〉

- そもそも個人が、何をやるのかということを中心に事例をださせていただいた。
- 企業や団体、地域活動団体などと協力して、そのための場を提供し、県民の方に混ざっていただいて、笑顔とか元気な生活に繋がってほしいというイメージであった。
- 活動しているのは個人個人ではあるが、延長線には地域との交流があったり、取り組んでいく中で、地域の取り組みに繋がるというイメージをもって落とし込んだところであった。
- 祭りのお話があったが、失われつつある伝統芸能、地域の祭りも、個人が関心を持つことで、生き返るようなこともあるかもしれないし、発展性を持たせながらのものであった。
- しかし、落とし込む部分では、理解がしにくかったのではないかと思います。

〈本多委員〉

- 資料1にある具体例は、レクリエーション協会で行っていることに全て繋がっている。
- 実践組織体では、核となってやっていけるのではないかと思います。
- 運動は組織だとしてやっている部分があり、イベントなどで食にも関わりがあるため、団体としての、県民運動への参加を加えてもらえればと思う。
- 「笑顔、元気、健康、地域、ふくしま」への反対意見は出ていないので、例示の整理さえすれば、まとまるのでは。

〈鶴見課長〉

- 伝わるような形で、取り組みの部分を整理させていただく。

〈丹波委員長〉

- 取り組みの柱のカテゴリー分けをどうするか。

〈鶴見課長〉

- カテゴリーを分けない方が、良いという御意見であったかと。

〈石井委員〉

- 例えば、「口を動かす、手を動かす、心を動かす、足を動かす」といったカテゴリーでは、食べるは口で、料理は手。「健康」に対してどこを動かしているか、「口、目、手、足、心」などそういう分け方だってあるのでは。
- あくまで例示なので、例示を出して、あとでまとめるやりの方が、まとめやすいのでは。
- カテゴリーは、確かに必要であるが。

〈鶴見課長〉

- 伝わる表現の仕方として、あくまでも例示にとどめて、笑顔に元気に繋がる取り組みを並べる方がいいのか、カテゴリーがあった方がいいのか、悩ましい。
- 「楽しむ」は、悩んだ部分で、復興のフェーズとして、こころの復興もあり、それに「こころの健康」も繋がることから、敢えて入れ込んだ。ボキャブラリーとしては、微妙であったかもしれない。
- 混じり合うものであることは、間違いないので委員長の意見もあり、真ん中に位置づけた。

〈丹波委員長〉

- イメージしやすい取り組みの具体的なものを掲げるとして、カテゴライズはどうするか。

〈森合委員〉

- 個人の行動例を書くのではなく、ふくしまを盛り上げていきましょうという運動であるから、例えば、地元の物を食べれば、地元の活性化に繋がるような例示を出していけばよいのでは。

〈丹波委員長〉

- そういった意見を踏まえて進めていきたい。
- これと決めにくく、事務局預かりが多くなったがよろしいか。

【実践組織体について】

〈丹波委員長〉

- 事務局から「県民が参加できる場の提供」と「県民運動を広めていく活動」のための組織体が必要であり、その構成団体には「場の提供」などを想定しているという話があった。
- このような実践組織体を設置することの有無、設置するとしたならば、組織体として、どのような役割をしていくべきかということについて御意見をいただきたい。
- 前回は、何団体であったか？

〈鶴見課長〉

- ・ 74団体である。

〈丹波委員長〉

- ・ 前提として、各団体が取り組みやすい、参加しやすいようにというのがあると思うが。

〈森合委員〉

- ・ 何らかの組織体は必要だが、74団体も必要かどうか疑問である。重い組織であったと思うので、代表する団体で構成し、スリム化してはどうか。
- ・ 県民運動は、県民自らが、取り組むものでなくてはならないので、組織体が、行動を提案していくことも必要なのでは。
- ・ 実践組織体の総意として、こういった活動はどうかと提案していく組織であって欲しい。

〈丹波委員長〉

- ・ 単に受けてやるのではなくて、こういうことをやっていこうと提案することも必要という御意見。

〈森合委員〉

- ・ そのためのひとつの方向性を議論していると捉えているので、提案していくような形であって欲しい。

〈丹波委員長〉

- ・ 「場の提供」や「広める活動」だけでなく、活動そのものの具体化、参画、自らつくりだしていくという感じ。

〈森合委員〉

- ・ 自ら参画し、その他の団体へは行動提案を行う。

〈石井委員〉

- ・ もっと議論するならば、まとめた方がいい。
- ・ 「実践組織体」という名称は、それ以外の人は、実践しなくてもいいと捉えられかねないため、違う方がいい。
- ・ 構成団体のある程度のセレクトは、必要。

〈丹波委員長〉

- ・ 組織体を設置することに、異論はないという理解でよろしいか。

〈森合委員〉

- ・ 「推進協議会」という名称にして、構成団体が広くならざるを得ないであろうから、議論する場としてワーキンググループや幹事会などを作ってはどうか。
- ・ 現状課題、方向性を常に議論する場があることで、実のある県民運動になるのではないかと。

〈菅野委員〉

- ・ そもそも論ではあるが、今更、県民運動って必要なのかと。
- ・ 国体に向けて始まったものであるが、今は、何かのための県民運動ではなく、県民運動そのものが、目的になっているのではないかと。
- ・ 今のふくしまで県民運動をやるというときに、団体に協力を求める中で、震災から5年を過ぎてのことであるということを知ってもらわなければならない。

〈丹波委員長〉

- ・ 実のある県民運動にしていくような、目的化しないといった御意見もあったが、そういうことを踏まえて、組織体にしていくということによいか。
- ・ 企画力のある組織といった御意見も踏まえて、資料2を作り込みたい。
- ・ 報告書を取りまとめる上で、委員長と事務局で相談し、報告書にまとめる時点で、皆様の意見をもらっていききたい。